

平成 2 1 年度 実施事業	<b>事務事業名</b> 登別救難所運営事業補助金
-------------------	---------------------------

区分	番号	名 称
章	3	大地に根ざしたたくましい産業が躍動するまち
節	2	自然を活かした産業の育成
施策	1	特色ある農業・漁業の推進
小分類	5	時代に即した漁業生産の基盤づくり
主要な施策	2	漁業経営の改善
事務事業番号	001	事務事業コード 32152001 事業開始年度 昭和 4 6 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	登別救難所運営事業補助金
------	------	------------	--------------

部 名	観光経済部	グループ名	農林水産 G
-----	-------	-------	--------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

対象	<p>(何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのかを具体的に記載ください)</p> <p>(社)日本水難救済会北海道支部登別救難所</p>
手段 (事業の内容・活動)	<p>(目指す姿を実現するためにどのような手法で行うのか、事業の内容を具体的に記載ください)</p> <p>海難事故の防止啓発や海難事故に伴う救助活動を行う(社)日本水難救済会北海道支部登別救難所の運営費の一部を補助する。</p> <p>主な事業内容 出初式、夏季演習、定期訓練、海難防止パレード、海難事故時の救助活動</p> <p>総事業費 992,354円</p> <p>補助金額 250,000円</p>
目指す姿 (成果)	<p>(事務事業を実施することでどのような状態にしたいのか具体的に記載ください)</p> <p>登別救難所は当初、漁船海難事故等の相互扶助を目的として設立されたが、近年、海洋性レクリエーションの普及に伴い、プレジャーボート等の海難事故が増加しており、海難事故の防止啓発や海難事故時の救助活動の安定を図る上で、救助体制の維持と日常における訓練による技術の向上を図る。</p>
根拠法令等	<p>(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載ください)</p> <p>水難救護法</p>

指標の推移

区 分		単位	区分	21年度 実績	22年度 目標	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標
成果 指標	夏季演習、定期訓練等開催回数	回	目標値	3	2	2	2	2
			実績値	2				
	漁船海難防止パレード開催回数	回	目標値	1	1	1	1	1
			実績値	1				

事業費の推移

区 分			単位	21年度 決算	22年度 当初予算	23年度 見込	24年度 見込	25年度 見込	23～25年度 合計
事業 の 財 源 内 訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円	250	250	250	250	250	750
合 計				250	250	250	250	250	750
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	33	35			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		33	35			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 海難事故に伴う救助体制の維持と訓練等により技術の向上を図り、事故時における迅速な救助活動及び事故防止の啓発活動を行う運営費の一部補助は必要である。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 海難事故に伴う救助体制の維持が図られている。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのように向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 事業の継続により海難事故の防止啓発や救助体制の維持が図られる。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 漁協、救済会、後援会の助成金と登別市の補助金で運営されており、必要最小限のものとなっている。

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	海難事故の救助活動は、従来の漁船主体の海難事故救護活動に加え、プレジャーボート等のレジャー型の事故による水災害被害者の救助活動にも協力していることから、重要な事業である。
----	----------------------	---

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維持	備考
----	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）